

「百号の額」 石川 寿夫

初雀障子に躍る枝移り

穢れなき地球の蒼さなづな粥

針供養えくぼの古希の糸切歯

白梅の風を巻き込む綿菓子機

朝茜揺らして濯ぐしじみ採

波を切り望郷を斬る残り鴨

天平の鴟尾跳ねる空花吹雪

万象へ合掌しばし羽化の蝶

新樹光鯉の水輪の幾重にも

駆けて来よ魁夷の白馬青葉沼

手囲ひの蛍を渡す手の呼吸

万緑に映ゆる落款朱のサイロ

かわせみの降下の枝の指定席

太陽の香る土塊トマト抜く

藻の位置を決めて金魚の遊歩道

峰の風掬つて被る夏帽子

吹かれつつ鶴翼の陣あめんぼう

ひぐらしの音色や翅のうすみどり

夜の底を金の浄土に湖の月

川風のジャズへ転調秋ざくら

きぬかつぎ笑顔のつなぐ里言葉

蒼穹を平らたひらに赤とんぼ

棟上げの響きは宙へ柿の里

山門は百号の額照紅葉

蔓引けば夕日の雫からす瓜

平安の雅びを野辺に実むらさき

银杏散り止まず第九最終章

顎あげて羽子板市を蟹歩き

相討ちも自刃も沼の枯はちす

茅葺きの雪解しづくの三拍子